

八尾市のめざす

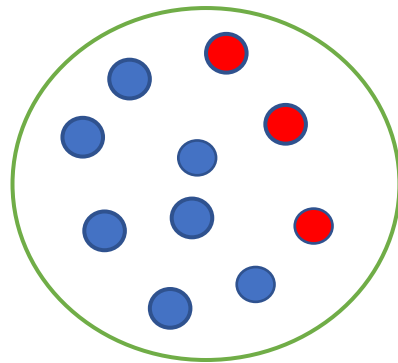
資料4-1

インクルーシブ（育ちあう）保育

「統合保育」から「インクルーシブ保育」へ

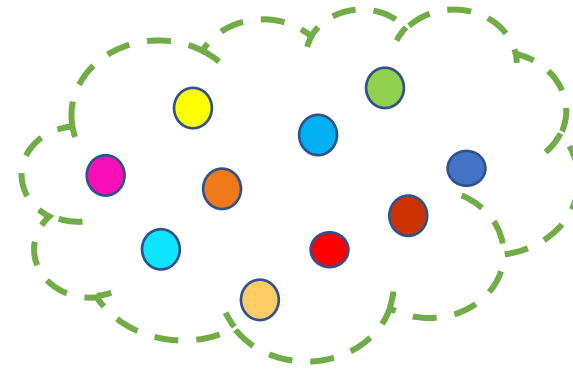
・統合保育（インテグレーション）

障がいのない子どもたちのなかに
障がいのある子どもを統合して保育する



・インクルーシブ保育

子どもは一人ひとり多様であることを前提に、
すべての子ども一人ひとりのニーズに応える
保育をつくりだしていくこと。



小さいカラフルな丸で表しているのは子どもたちの姿

★子どもたち一人ひとりが全員違うということ

★子どもの姿に合わせて保育をかえるということ

リーフレット

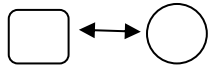
QRコード

「インクルーシブ(育ちあう)保育」を実践するために

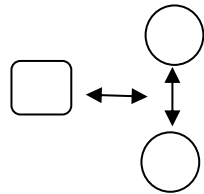
★子どもたちが相互に影響しあいながら育っていく
実践をつくりだしていきましょう。

★「幼いときから、共に生活し、共に育ちあう経験をする」
そんな子ども同士の育ちあいが大切です。

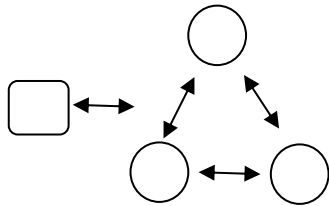
① 「この子」への手立て



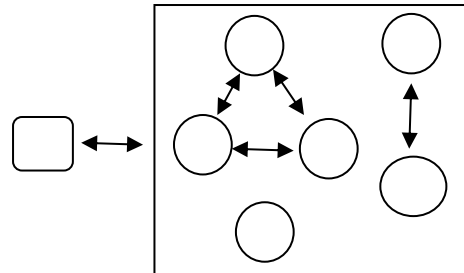
② 仲間関係への手立て



③ 集団(グループ)への手立て



④ クラスへの手立て



○ は子ども

□ は保育者の姿です

★保育実践の中でどのような手立てが必要かをみんなで考えていきましょう。

出典：堀智晴(2004)『保育実践研究の方法』川島書店を参照。

令和7年度 障害児保育審議会

八尾市のめざす インクルーシブ(育ちあう)保育



保育を進める中で大切にしたいこと

★子どもたち一人ひとりが全員違うということ
(多様性の尊重)

- 子ども一人ひとりの存在、思いや気持ちを受けとめましょう
- 肯定的な声掛けや温かいまなざしで寄り添い、子どもの安心や意欲につなげましょう。
- 子どもたちが互いに関心をもって、それぞれのよさが認められるクラスを運営しましょう。

★子どもの姿に合わせて保育をかえるということ
(基礎的環境整備)

- 子どもが自分の好きな遊びや好きな活動を選べる環境を整えましょう。
- 「楽しい!」「やってみたい!」など子どもの心が動く環境を整えましょう。
- 常に子どもを真ん中に、子どもの姿に合わせて保育を考えていきましょう。
- 誰もがわかる保育内容を工夫しましょう



インクルーシブ（育ちあう）保育の視点

「多様性があることが当たり前」という保育の視点の前提にたち、基礎的環境整備を土台とし、合理的配慮が充実することですべての子どもが安心して過ごせる環境をめざす。

3歳児 4、5月頃 タイトル「やりたい遊びを見つけよう」

【子どもの姿】

好きな遊びの時間（保育室内に4つの遊びを設定する）

- ① お絵描きや塗り絵 ②ブロックや積み木 ③乗り物 ④ままごと
- ・進級児や新入園児がおり、新しい環境で不安な気持ちの子どもが多い。
 - ・知っている遊びを保育者と一緒にしたたり、保育者の存在を近くに感じたりしながら遊ぶことで安心している。
 - ・室内を走り回って、友だちがつくったブロックや積み木を倒している。
 - ・椅子の上に立ってジャンプすることを何度も繰り返している。

【保育者の援助や環境構成】

- ★初めての環境で不安感をもっている子どもが多いので、子どもたちが知っている遊びや見ただけで遊び方が理解できる遊びを準備する。
- ♥ブロックや積み木などを倒したり、壊したりすることを楽しめるコーナーを別に設定する。
- ♥マットを敷いてウレタン積み木などを準備し、ジャンプをしたり、体操やリズムなど体を動かしたりする場を設定する。
- ♥居場所づくりのために安心してゆったり過ごせるスペースを設定する。

【振り返り】

- ・やりたい遊びを選べるように環境を準備したことで、好きな遊びが見つかり、安心して遊ぶ姿が見られている。
- ・子どもの姿から保育室の環境を整え、再構成している。時期と子どもの姿に合わせた環境構成をする。
- ・クラス内でも発達に差があることや、子ども一人ひとりの姿を受け止め気持ちに寄り添ったことで、少しずつ落ち着きが見られてきている。
- ・子どもが楽しんでいることを保育者も一緒にやってみることで、子どもが何を楽しんでいるかを知り、子ども理解につながった。

★**基礎的環境整備とは**：すべての多様な子どもが、安心して遊び、過ごせるようにあらかじめ環境を整えること。

5歳児 1月頃 タイトル「自分だけのオリジナルの鬼のお面をつくろう」

【子どもの姿】

- ・制作が好きな子どもは、毛糸や花紙を丸めたりちぎったりして鬼の髪の毛に見立て自分で考えながらつくっている。
- ・角が1本の鬼もいれば、角をたくさんつけることを楽しみ、角だらけの鬼もいる。
- ・制作が好きでないA児は、他の遊びを楽しんでいる。自分でつくったお面をつけて遊んでいるB児を見て興味をもっている。「一緒につくる？」と話しかけてくれたB児に手伝ってもらいながらお面をつくり、A児も自分のお面を身につけてB児と一緒に楽しそうに遊び始めた。
- ・自分でつくったお面をつけて遊ぶ姿を保育者や保護者に笑顔で見せていた。

【保育者の援助や環境構成】

- ★日程に余裕を持ち「鬼のお面をつくる」予定を子どもたちに伝えている。
- ★自分が好きな時間（好きな遊びの時間・給食後など）いつでもつくれる場の設定をし、様々な素材や道具などを用意する。
- ★子ども同士のかかわりを大切に、見守りながら必要に応じて援助する。
- ★イメージがもちやすいように鬼の絵本や保育者がつくった鬼のお面の見本を置いておく。
- ♥子どもに合わせ、顔のパーツや貼るだけで出来上がるシールなども用意する。
- ♥一人ひとりの苦手意識に気づき「やろう」とする気持ちを大切に個々に応じた援助をする。

【振り返り】

- ・子どもの姿に合わせた素材が準備されていることで、自分で考えてつくり、思いが形になる喜びを感じていた。
- ・自分だけのお面をつくり保育者や友だち、保護者に認められることで達成感をもつことができた。
- ・A児はつくるだけで終わらず、つくったもので遊ぶことを知り、B児の作品を見て「やってみよう」という気持ちが芽生えた。友だちと一緒に作る経験の中で互いの違いを認め合えた。
- ・制作期間に余裕をもつことで、子どもの姿に応じて無理なく制作することができ寄り添った支援につながった。

♥**合理的配慮とは**：障がいのある子どもの状況に合わせて、必要かつ適当な変更や調整を行う、個別的な対応のこと。